

## 新年のご挨拶

宮城県医師会会長 佐藤 和 宏



明けましておめでとうございます。

2020年から全世界、そして我が国を襲ったコロナ感染症の勢いは衰えを見せ始め、ようやく日常生活が取り戻された感じがする今日この頃です。しかしながら、医療界においても、コロナ前後では変わったところが多々あり、これから時間をかけて修復していくべきところもあります。今年こそ、明るい日常生活を送りたいものだとつくづく思っております。

さて、日本医師会では診療報酬改定を巡って、財務省との闘いが佳境に入っています。令和5年11月1日に行われた財政審で財務省は「診療報酬をマイナス改定にすることが妥当であり、ことにコロナ診療、補助金で利益率が上昇した診療所の初診、再診料金を下げるべきだ」との主張を行いました。

発熱外来、コロナのワクチン接種、コロナ患者の入院などを積極的に行ってください、補助金も出しますから、と国に催促されて行った結果が、診療所の医業利益、経常利益の上昇につながっており、国益にとり必要な措置だったはずですが。一番記憶に残っているのは「1日コロナ予防接種100万回の達成」という当時の菅総理の号令です。発熱外来も、時間外なども利用して行いました。その結果はどうだったのでしょうか。コロナによる死亡者は、G7（先進7か国）中最低であり、一桁少ない値でした。

コストパフォーマンスの観点からは、新興感染症に対する国の備えは全くできていなかったものの、その後のコロナ感染者に対する措置などは、欧米諸国と比較して良い結果をだしたのではないのでしょうか。それを後出しじゃんけんのように、出した補助金が多すぎたので、診療報酬で返して欲しいと言われても、全く納得はできません。

一方で、病院の経営は大変です。日病などの調査によれば（2022年度、3か月分、n=630）、医業利益は77%の病院で赤字、コロナ補助金等を除いた経常利益は72%の病院で赤字です。この原因の一つとして、光熱費などの物価高があります。また、給食費は、1日1,920円で約30年間据え置きであり、77円の逆ザヤとなっています。公的、公立病院はともかく、どこからも支援金がない民間中小病院の経営はもはや風前の灯火状態です。日病会長の相澤先生は、全国4,600余りの病院の嘆願書を総理はじめ多くの関係機関へ提出し、4%以上の入院基本料金のアップを訴えています。今後民間中小病院の経営はどうなってしまうのか、本当に心配です。

医療介護関係者の就業者は、全国で約900万人（全就業者の約13%）と言われていています。令和4年の春闘での賃上げ率は、3.58%ですが、医療介護関係は1%台とも言われており、そうした観点からも診療報酬のプラス改定は是非必要です。私たち医師連盟の活動は大変重要であります。松本委員長を中心とした活動により、是非有利な改定を勝ち取りたいものです。

さて、宮城県医師会の今年の活動の特徴は、「多方位外交」に徹したことにあります。今までは、主として東北医師会連合会構成県とのお付き合いでしたが、令和5年は、兵庫県医師会、北海道医師会、広島県医師会と会長以下7名程度の会合を持ちました。また、栃木県医師会会長と面会し、尾崎東京都医師会会長には来仙して医療問題検討委員会で講演いただきました。今後もこうした方針でいく予定です。個人的には日医理事を拝命して、他都道府県医師会理事の先生とのおつきあいは格段に増えました。

今年の宮城県医師会の活動方針としては、今まで行ってきたことを更に発展させることはもちろんで

---

---

---

---

---

---

---

---

## 年 頭 所 感

すが、高校生，医学生，研修医などの若い世代との交流，少子化対策に取り組むこと，そして何よりも会員各位との対面での交流を図ることが必要と考えます。そうしたことが，松本会長の重要政策でもある組織強化にもつながると信じております。

今年こそ，明るい充実した年になりますこと，そして会員の先生方のご健勝とご発展を心からご祈念申し上げます。今年も，宮城県医師会，宮城県医師会健康センターおよび宮城県医師会協同組合をどうぞよろしく願い申し上げ，新年のご挨拶とさせていただきます。

